



静岡県公立大学法人

静岡県立大学

2022年度 第9期

ジャーナリズム公開講座

静岡県立大学ジャーナリズム公開講座は2022年度、全13回の講座を開講します。

講座の目標は「ジャーナリズムの向上による民主主義の成熟」です。

現在、日本ではジャーナリズムの位置付けが希薄で、とりわけ専門知識が問われる安全保障、危機管理、科学技術分野においては、十分な検証能力を備えていない印象さえあります。

そのような日本の現状を打開し、日本と静岡の安全と繁栄を確かなものになりたい。

それが、本公開講座のねらいです。



オンライン配信 (Zoomウェビナー)

参加無料

どなたでもお申込みいただけます。

※要事前申込 先着100名様

2022年4月～2023年3月

全13回 毎月1回 18時30分～20時30分 開催

目 程	テーマ	講 師	※略歴は裏面に記載
①	4月21日(木)	ウクライナ侵攻は台湾有事に連動しない	小川和久 (静岡県立大学特任教授)
②	4月28日(木)	ロシア・ウクライナ戦争と日本	小泉 悠 (東京大学専任講師)
③	5月26日(木)	プーチンのテロと戦争の24年	常岡浩介 (ジャーナリスト)
④	6月30日(木)	新しい「権力」とジャーナリズムの役割	佐々木俊尚 (作家・ジャーナリスト)
⑤	7月28日(木)	知る権利とメディア	望月衣塑子 (東京新聞記者)
⑥	8月25日(木)	メディア大変動	西村陽一 (元朝日新聞常務取締役編集担当)
⑦	9月29日(木)	リスクコミュニケーションとメディア	福田 充 (日本大学教授)
⑧	10月27日(木)	なぜ?を掘り起こす報道	森 健 (ジャーナリスト)
⑨	11月24日(木)	福島の実現とイメージの来し方行く末	開沼 博 (東京大学准教授)
⑩	12月15日(木)	トリチウム処理水をめぐる報道を考える	小島正美 (食・健康ジャーナリスト)
⑪	1月26日(木)	SNS時代のジャーナリズム	神保哲生 (ビデオニュースドットコム代表)
⑫	2月16日(木)	封印された殉教—終戦直後の神父射殺事件を追う	佐々木宏人 (元毎日新聞中部本社代表)
⑬	3月16日(木)	中国の反体制ネットユーザーが繰り出す作戦	安田峰俊 (ルポライター)

▶申込方法 グローバル地域センターのウェブサイトから各回の案内にしたがって
ウェビナー登録をしてください。登録完了後に接続方法をご案内します。

<https://www.global-center.jp>

▶お問い合わせ

静岡県立大学グローバル地域センター



Tel:054-245-5600 E-mail:nishi@u-shizuoka-ken.ac.jp(担当:西)

第1回
4月21日

ウクライナ侵攻は台湾有事に
連動しない



小川和久
静岡県立大学特任教授

1945年熊本県生まれ。陸上自衛隊生徒教育隊・航空学校修了。同志社大学神学部中退。日本海新聞、週刊現代記者を経て1984年、日本初の軍事アナリストとして独立。外交・安全保障・危機管理の分野で政府の政策立案に関わり、国家安全保障に関する官邸機能強化会議議員などを歴任。2012年から現職で静岡県の危機管理体制の見直しに取り組んでいる。『危機管理の死角』『日米同盟のリアリズム』など著書多数。

第2回
4月28日

ロシア・ウクライナ戦争と日本



小泉 悠
東京大学専任講師

1982年千葉県生まれ。早稲田大学社会科学部、同大学大学院政治学専攻科修了。政治学修士。民間企業勤務、外務省分析員、ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所(IMEMORAN)客員研究員、未来工学研究所研究員などを経て2019年、東京大学先端科学技術研究センター特任助教、22年、同専任講師。ロシアの軍事・安全保障を専門としており、特にロシアの軍改革、ハイブリッド戦略、核戦略、宇宙戦略などに詳しい。著書に『現代ロシアの軍事戦略』、『「帝国」ロシアの地政学』(サントリー学芸賞)など。

第3回
5月26日

プーチンのテロと戦争の24年



常岡浩介
ジャーナリスト

1969年生まれ。早大卒。NBC長崎放送報道記者を経て98年からフリー。アフガニスタン、チェチェン、イラク、シリア、ウクライナなどの戦争取材。武装組織の幹部や反体制派を直接取材した結果、各国の諜報機関や政府系組織に拉致・誘拐された経験がある。国内では北大生らの私戦予備陰謀事件に絡んで公安警察に自宅捜索され、不起訴処分後も旅券の発給を拒否されている。著書に『イスラム国とは何か』『ロシア 語られない戦争—チェチェンゲリラ従軍記』、自身の経験を漫画化した作品に『常岡さん、人質になる。』。

第4回
6月30日

新しい「権力」と
ジャーナリズムの役割



佐々木俊尚
作家・ジャーナリスト

1961年兵庫県生まれ。愛知県立岡崎高校卒、早稲田大学政治経済学部政治学科中退。1988年、毎日新聞社に入社。事件記者としてオウム真理教事件、ペルー日本大使公邸占拠事件、エジプト・ルクソール観光客襲撃事件などを取材する。99年退社、月刊アスキー編集部を経て2003年に独立。テクノロジー、政治、経済、社会、ライフスタイルなど幅広く取材・執筆・発信している。総務省情報通信白書編集委員。著書に『読む力 最新スキル大全』『時間とテクノロジー』『そして、暮らしは共同体になる。』『キュレーションの時代』など多数。

第5回
7月28日

知る権利とメディア



望月衣塑子
東京新聞記者

1975年東京生まれ。慶應義塾大学法学部卒業後、東京・中日新聞社に入社。千葉、神奈川、埼玉の各県警、東京地検特捜部の担当、経済部などを経て社会部遊軍記者。17年6月から菅官房長官の会見に出席。質問を重ねる姿が目立つ。その経験を記した著書『新聞記者』(角川新書)は映画の原案となり、日本アカデミー賞の主要3部門を受賞した。現在は入管や外国人の労働問題などをテーマに取材を続けている。著書に『報道現場』『武器輸出と日本企業』『同調圧力(共著)』(いずれも角川新書)、『自壊するメディア(共著)』(講談社+α新書)など多数。

第6回
8月25日

メディア大変動



西村 陽一
東京大学大学院客員教授、元朝日新聞常務取締役編集担当

1958年生まれ、東京出身。1981年東京大学教養学部卒、朝日新聞社入社。米国とロシアの特派員を計12年勤め、チェチェン戦争、米ロの大統領選、核解体、イラク戦争、米中関係などを取材。政治部長、編集局長を経て2021年まで役員として常務取締役編集担当のほか、デジタル、マーケティング、国際などを担当、ザ・ハフィントン・ポスト・ジャパン代表取締役も務めた。中国・清華大学で高級訪問学者、法政大でアジア国際政治概論を講義。著書『プロメテウスの墓場』など。現在は東京大学大学院で情報社会論を講義している。

第7回
9月29日

リスクコミュニケーションと
メディア



福田 充
日本大学教授

1969年兵庫県生まれ。博士(政治学)。東京大学大学院博士課程単位取得退学。コロンビア大学客員研究員、日本大学法学部教授等を経て現職。内閣官房等でテロ対策や防災、感染症対策の委員を歴任。著書、編著に『リスクコミュニケーション—多様化する危機を乗り越える』(平凡社新書)、『メディアとテロリズム』(新潮新書)、『テロとインテリジェンス—覇権国家アメリカのジレンマ』(慶應義塾大学出版会)、『大震災とメディア—東日本大震災の教訓』、『リスク・コミュニケーションとメディア—社会調査論的アプローチ』(北樹出版)など。

第8回
10月27日

なぜ?を掘り起こす報道

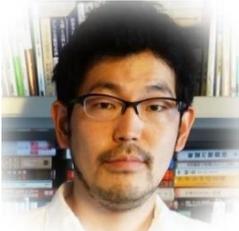


森 健
ジャーナリスト

1968年東京都生まれ。92年に早稲田大学法学部卒業。在学中からライター活動をはじめ、科学雑誌や総合誌の専属記者で活動。96年にフリーランスに。2012年、『つなみ』の子どもたち』で第43回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。2015年、『小倉昌男 折りと経営』で第22回小学館ノンフィクション大賞、17年に同書で第48回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。このほか『就活って何だ』(文春新書)、『グーグル・アマゾン化する社会』(光文社新書)など著書多数。2016年からヤフーニュース特集(社会課題)でデスクを務める。

第9回
11月24日

福島の現実とイメージの来し方 行く末



開沼 博
東京大学准教授

1984年生まれ、福島県出身。東京大学文学部卒、同大学院学際情報学府博士課程単位取得満期退学。専攻は社会学。著書に『東電福島原発事故 自己調査報告』（細野豪志元原発事故収束担当大臣との共著、徳間書店）、『日本の盲点』（PHP新書）、『はじめての福島学』（イースト・プレス）、『漂白される社会』（ダイヤモンド社）、『フクシマの正義：日本の「変わらなさ」との闘い』（幻冬舎）、『「フクシマ」論：原子力カムラはなぜ生まれたのか』（青土社）、『福島第一原発廃炉図鑑』（編著、太田出版）など。

第10回
12月15日

トリチウム処理水をめぐる 報道を考える



小島正美
食・健康ジャーナリスト
元毎日新聞編集委員

1951年愛知県犬山市生まれ。愛知県立大学卒業後、毎日新聞社入社。松本支局などを経て東京本社生活報道部に配属。編集委員として食や健康・医療問題を担当。2018年退社。2015年から「食生活ジャーナリストの会」代表。東京理科大学非常勤講師。著書に『みんなで考えるトリチウム水問題』（共著、エネルギーフォーラム）、『新版・スズキメソッド 世界に幼児革命を一鈴木鎮一の愛と教育一』（創風社）、『誤解だらけの遺伝子組み換え作物』『メディア・バイアスの正体を明かす』（いずれもエネルギーフォーラム）など多数。

第11回
1月26日

SNS時代のジャーナリズム



神保哲生
ビデオニュース・ドットコム代表

1961年東京都生まれ。コロンビア大学ジャーナリズム大学院修士課程修了。AP通信などの記者を経て1994年ジャーナリストとして独立。2000年日本初のニュース専門インターネット放送局ビデオニュース・ドットコムを設立。著書に『ビデオジャーナリズム』（明石書店）、『PC 遠隔操作事件』（光文社）、訳書に『DOPE SICK』（ベス・メイシー著、光文社）、『食の終焉』（ポール・ロバーツ著、ダイヤモンド社）、『暴君誕生』（マット・タイービ著、ダイヤモンド社）など。

第12回
2月16日

封印された殉教 終戦直後の神父射殺事件を追う



佐々木宏人
元毎日新聞中部本社
代表・東京本社経済
部長

1941年、北海道釧路市生まれ。65年、早稲田大学政治経済学部卒、毎日新聞社入社。水戸支局を経て経済部、政治部記者として、エネルギー分野を中心に高度成長期から第一次石油ショック後まで日本経済取材した。85年甲府支局長。在任中、1945年の戸田帯刀神父射殺事件を知る。91年から経済部長、広告局長、役員待遇中部本社代表。2001年同社退社。（株）ChannelJ常務などを経て『封印された殉教（上・下）』を執筆、18年にフリープレスから出版。他の著書に『茨城の明治百年』（毎日新聞社、共著）、『当世物価百態』（同）。

第13回
3月16日

中国の反体制ネットユーザーが 繰り出す作戦



安田 峰俊
ルポライター

1982年滋賀県生まれ。『八九六四「天安門事件」は再び起きるか』が第5回城山三郎賞・第50回大宅壮一ノンフィクション賞、『「低度」外国人材』が第5回及川眠子賞受賞。他に『現代中国の秘密結社』『みんなのユニバーサル文章術』など著書多数。2018年から立命館大学人文科学研究所客員協力研究員。